

第37回SGRAフォーラム

エリート教育は国に「希望」をもたらすか：
東アジアのエリート教育の現状と課題

プログラム

日時：2009年12月5日（土）午後2時30分～5時30分 その後懇親会

会場：東京国際フォーラム ガラス棟G701会議室

主催：関口グローバル研究会（SGRA：セグラ）

協賛：（財）渥美国際交流奨学財団

フォーラムの趣旨

SGRA「東アジアの人材育成」研究チームが担当するフォーラム。

国際化の進展と知の世界競争が激しくなるなか、国際的にも通じ、自国の社会的ニーズにも応じられる次世代の人材を育成すべく、ほとんどの国でエリート教育の推進が重要な政策課題となっている。とりわけ、儒教文化が根強く残り、学校教育を重んじる傾向にある東アジアの多くの国では、経済競争力を維持していくためにも、未来への投資として国の将来を担えるエリートの人材の育成に積極的に取り組んでいる。このような人材育成制度が国や社会にどのような影響を与えているのか。そもそもエリートとは何なのか。今どんなリーダーが必要とされているのか。本フォーラムの前半では、日中韓シンガポールのエリート教育の制度と実態について最新の調査研究を報告する。後半には、玄田有史氏に、希望学の視点からこの大競争社会におけるリーダーの役割やエリート教育について総括していただく。

14:30-14:40

総合司会：羅 仁淑（国士舘大学政経学部非常勤講師、SGRA会員）

開会挨拶：今西淳子（SGRA代表）

14:40-15:05

【発表1】

エリート教育：
自由主義の日本 vs 育成主義のシンガポール
SIM CHOON KIAT（シム チュン キャット）

東京大学教育学研究科研究員・日本学術振興会外国人特別研究員・SGRA研究員

知をめぐる世界競争が激しくなるなか、日本ではエリート教育の重要性が認識されながらも、教育における平等性を重視するあまり、それについての議論は憚られる傾向が強い。一方、シンガポールはエリートの育成に余念がなく、独立以来エリート教育に力を入れてきた歴史をもつ。

ここで疑問として浮かんでくるのは、個人主義が浸透したシンガポールにおいて、制度的にエリートを作り上げることに限界はないのか。反対に、同じように個人主義が幅を利かせている今日の日本において、エリートの育成をこれまで通りに自由放任の過程に任せていいのか。両国の超名門高校で行った調査をもとに、本報告では以上の問いについて考えるための材料を示したい。

<p>15:05-15:25 【発表2】</p>	<p style="text-align: center;">韓国のエリート高校教育の現場に行く ～グローバル時代のエリート教育を考える～</p> <p style="text-align: center;">金 範洙（キン・ボンス）</p> <p style="text-align: center;">東京学芸大学特任教授・韓国国立公州大学校客員教授・SGRA 研究員</p> <hr/> <p>韓国の大学進学のための受験競争は、国際社会でも話題になるほど熾烈な様相を呈しており、近年まで、韓国政府はその鎮静化を図る様々な教育政策を打ち出してきた。その代表的なものが中等学校の平準化政策である。しかし、その一方で、国家競争力の強化のための人材育成や英才教育が重要課題として位置づけられており、韓国の高校教育は、一見矛盾する教育政策が混在する中で行われてきたと言える。</p> <p>教育の自律性を重視する新政権の誕生後、高校教育において平準化政策からエリート教育への転換とも捉えられる動きが顕著化し、教育のグローバル化が急速に進んでいる。</p> <p>本報告では、現在の韓国の高校教育をエリート教育の側面から概観し、激変する教育環境の中で、東アジアの状況を踏まえて国際連携の可能性を考える。</p>
<p>15:25-15:45 【発表3】</p>	<p style="text-align: center;">市場化のなかの中国のエリート教育</p> <p style="text-align: center;">張 建（ちょう・けん）</p> <p style="text-align: center;">東京大学大学院教育学研究科博士課程・SGRA 研究員</p> <hr/> <p>中国のエリート教育は、「重点学校」を中心に行われている。中国の教育システムにおいて、長らく重要な役割を果たしてきたこのタイプの学校は、大衆教育とエリート教育、あるいは教育の量と質の間に生じる矛盾を解決することを目的としたものであった。しかしながら、それは多くのエリートを生み出した一方で、公立学校間の格差を深刻化させている。</p> <p>1980年代以降、中国の教育市場化によって、「重点学校」の運営原理に多くの変化が起き、エリート教育と社会階層との間により明確な関係が見られるようになってきている。本報告は、報告者が中国で実施した高校生調査に基づいて中国のエリート教育の変容を概観する。</p>
<p>15:45-16:00</p>	<p style="text-align: center;">質疑応答</p>
<p>16:00-16:10</p>	<p style="text-align: center;">休 憩</p>
<p>16:10-16:50 【総括・コメント】</p>	<p style="text-align: center;">希望学からみたエリート教育</p> <p style="text-align: center;">玄田有史（げんだ・ゆうじ）</p> <p style="text-align: center;">東京大学社会科学研究所教授</p>

16:50-17:30	<p style="text-align: center;">パネルディスカッション</p> <p style="text-align: center;">進行：羅 仁淑（国土館大学政経学部非常勤講師、SGRA会員）</p> <p style="text-align: center;">パネリスト：上記講演者</p>
17:30	<p style="text-align: center;">閉会挨拶： 嶋津忠廣（SGRA運営委員長）</p>

講師略歴

■ 玄田有史（げんだ・ゆうじ）Genda Yuji

1988年東京大学経済学部卒業、1995年ハーバード大学客員研究員、1996年オックスフォード大学客員研究員、2000年学習院大学経済学部教授等を経て、2007年4月から現職。2005年より、「希望と社会のあいだの本質的なかわりとは？」をテーマとし、思想・制度研究、経済・歴史分析、社会調査などをもとに“希望を科学する”という「希望学プロジェクト」を4年間にわたり実施。経済学博士。専攻は労働経済学。主な著書に『ニート：フリーターでもなく失業者でもなく』（幻冬舎・2004年・共著）、『14歳からの仕事道（しごとみち）』（理論社・2005年）、『希望学』（中公新書ラクレ・2006年・編著）、『希望学 第1巻～第4巻』（東京大学出版会・2009年・編著）等多数。

■ シム チュン キャット Sim Choon Kiat

シンガポール生まれ。シンガポール教育省・技術教育局の政策企画官などを経て、2008年東京大学教育学研究科博士課程修了、博士号（教育学）を取得。専攻は比較教育社会学。2008年4月から現職。SGRA研究員。著書：「リーディングス・日本の教育と社会—第2巻・学歴社会と受験競争」本田由紀・平沢和司編）第18章『高校教育における日本とシンガポールのメリトクラシー』（日本図書センター・2007年）、『シンガポールの教育とメリトクラシーに関する比較社会学的研究：選抜度の低い学校が果たす教育的・社会的機能と役割』（東洋館出版社・2009年）。

■ 金 範洙（キン・ボンス）Kim Bum Su

韓国仁川生まれ。韓国外国語大学校日本語科を卒業して1995年来日。2006年東京学芸大学連合大学院博士課程修了。専攻は、学校教育学（社会系教育（歴史））、学術博士。2006年東京学芸大学講師等を経て、2008年4月から現職。SGRA研究員。主要論文に「旧韓末留学生監督に関する一考察—留学生監督申海永を中心に—」『朝鮮学報』第191輯、2004年3月。「大韓帝国末期渡日朝鮮留学生の現実認識—留学生団体機関誌の論説にみる文明観・国家観—」『学校教育学研究論集』第13号、2006年3月。

■ 張 建（ちょう・けん）Zhang Jian

中国山東省済南市出身。1999年来日。東京大学大学院教育学研究科博士課程に在籍。中国の後期中等教育と社会階層をテーマとした博士学位申請論文を本年9月に提出。SGRA研究員。主要論文に『変動期における中国家庭の階層移動と教育戦略』（大阪大学教育学年報第10号・2005年）、『社会関係資本による「周辺的文化資本」の獲得』（比較教育研究第18号・2006年）、『中国市場経済における「教育産業化」』（日中教育研究交流会議研究年報第18・19合併号・2009年）。

SGRAとは

SGRAは、世界各国から渡日し長い留学生活を経て日本の大学院から博士号を取得した知日派外国人研究者が中心となって、個人や組織がグローバル化に立ちむかうための方針や戦略をたてる時に役立つような研究、問題解決の提言を行い、その成果をフォーラム、レポート、ホームページ等の方法で、広く社会に発信しています。研究テーマごとに、多分野多国籍の研究者が研究チームを編成し、広汎な知恵とネットワークを結集して、多面的なデータから分析・考察して研究を行います。SGRAは、ある一定の専門家ではなく、広く社会全般を対象に、幅広い研究領域を包括した国際的かつ学際的な活動を狙いとしています。良き地球市民の実現に貢献することがSGRAの基本的な目標です。

SGRAかわらばん無料購読のお誘い

SGRAフォーラム等のお知らせと、世界各地からのSGRA会員のエッセイを、毎週水曜日に電子メールで配信しています。SGRAかわらばんは、どなたにも無料でご購読いただけます。購読ご希望の方は、ホームページから自動登録していただけます。

★詳細はホームページ (<http://www.aisf.or.jp/sgra/>) をご覧ください。